

令和7年3月31日審議		
1	申請者	作業療法士 柴田 進吾
	2024-42	てんかん患者における職業認知能力訓練（VCAT-J）の有用性に関する研究
	研究の概要	てんかん患者において、VCAT-Jの有用性を検証することを目的とする。
2	判定	承認 本申請は承認された。
	申請者	生理・薬理研究室長 寺田 達弘
	2024-43	多系統萎縮症の病態解明と早期診断法の確立
3	研究の概要	MSAに特徴的な脳萎縮のパターンを検討するとともに、睡眠時無呼吸や起立性低血圧と関連のある脳部位および、神経心理学的検査と脳容積に関連のある脳部位を同定する。これにより、MSAの診断精度の向上につながる可能性がある。また、自律神経障害と認知機能障害の神経基盤を検証することにより、MSAの病態機序の解明に迫ることができる可能性がある。
	判定	承認 本申請は承認された。
	申請者	生理・薬理研究室長 寺田 達弘
	2024-44	軽度認知機能障害（軽症認知症を含む）の人の全国的な情報登録・連携システムに関する研究（ORANGE-MCI）
	研究の概要	認知症の新規治療薬の開発、そして、認知症発症の危険因子の検証のため、認知症症例の年齢や病期、経過に関する臨床情報の登録と連携システムシステムの構築を目的としている。
	判定	承認 本申請は承認された。

令和7年3月31日審議		
4	申請者	生理・薬理研究室長 寺田 達弘
	2024-45 浜松PET診断センターにて撮像されたPET画像を利用した、脳神経疾患の後方視的評価	
	研究の概要	浜松PET診断センターにて撮像されたPET画像と、当院で採取した臨床データとの関連を後方視的に検討し、神経症状の責任病巣と神経基盤を検証することにより、脳神経疾患の病態機序の解明に資することである。
5	判定	承認 本申請は承認された。
	申請者	生理・薬理研究室長 寺田 達弘
	2024-46 認知症病態に関する液性・画像データベース研究	
	研究の概要	血液(あるいは髄液)バイオマーカーとアミロイドやタウの画像バイオマーカーを比較検証する目的で、それぞれをデータベース化して、認知症の病態初期の描出システムを開発する。
6	判定	承認 本申請は承認された。
	申請者	生理・薬理研究室長 寺田 達弘
	2024-47 未発症/発症超早期の家族性(遺伝性)プリオン病の臨床調査研究	
	研究の概要	早期診断基準の作成に必要なエビデンス構築のため、遺伝性プリオン病の発症を待たず発症リスクの保有を把握できる遺伝性プリオン病に着目し、発症前または発症超早期の遺伝性プリオン病の発症リスク保有者の把握及びその未発症の症例の画像検査及び生体材料を採取し、リスク保有者の発症に至る経緯を解明し、早期診断基準の有効性を検証する。
	判定	承認 本申請は承認された。

令和7年3月31日審議		
7	申請者	生理・薬理研究室長 寺田 達弘
	2024-48 頭部MRIの正常データベースの作成	
	研究の概要	正常ボランティアに頭部MRIを施行し、頭部MRIの信号値の正常値を作成するとともに、健常者の脳機能の特徴を確認することである。これにより、脳神経疾患症例と正常データベースとの比較が可能となれば、診断精度の向上につながる可能性がある。
8	判定	承認 本申請は承認された。
	申請者	生理・薬理研究室長 寺田 達弘
	2024-49 [11C]BU99008 PETトレーサーを用いた神経・精神疾患への脳病態研究	
	研究の概要	患者の紹介先である当院の共同連携施設、浜松医科大学および浜松PET診断センターで、倫理委員会に承認された多施設共同研究において撮像されたPET画像と、当院で採取した臨床データとの関連を検討するものである。
9	判定	承認 本申請は承認された。
	申請者	生理・薬理研究室長 寺田 達弘
	2024-50 プリオン病の脳波および画像解析研究	
	研究の概要	プリオン病患者に対して、当院で過去に行われた診療情報をとりまとめ、脳波波形解析・統計画像解析を行い、臨床症状や髄液検査、プリオン遺伝子検査、病理検査との相関関係を検討するものである。本研究により、いまだ早期診断法・治療方法の存在しないプリオン病の病態機序をあきらかにできる可能性がある。
	判定	承認 本申請は承認された。

令和7年3月31日審議

10

申請者	脳神経内科医師	高嶋 浩嗣
2024-51 筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者におけるDAT-SPECTとMRI、臨床症状・神経心理検査の相関		
研究の概要	過去に撮像された頭部MRIとDAT-SPECTを用いて、筋萎縮性側索硬化症における脳形態変化と黒質線条体系の異常を客観的に評価するとともに、ドパミン系障害の脳形態変化および認知機能障害への関与を検討することで、筋萎縮性側索硬化症における黒質線条体系障害の病態生理学的意義、認知機能障害の神経基盤を後方視的に明らかにする。	
判定	承認	本申請は承認された。

11

申請者	副院長	小尾 智一
2024-52 余剰脳脊髄液中の、 $A\beta$ 42蛋白の測定 Measurement of the $A\beta$ 42 protein in surplus cerebrospinal fluid.		
研究の概要	2003年から現在まで、軽度認知障害の前方視的・後方視的研究をおこなっており、対象患者の脳脊髄液中のタウ蛋白、リン酸化タウ蛋白、 $A\beta$ 42蛋白の測定をおこなっている。今回、脳脊髄液中のタウ蛋白、リン酸化タウ蛋白の測定が保険適応となったため $A\beta$ 42蛋白の測定のみについて研究を継続したい。	
判定	承認	本申請は承認された。

12

申請者	副院長	小尾 智一
2024-53 軽度認知障害の前方視的・後方視的研究		
研究の概要	認知症予備軍とされている、軽度認知障害(mild cognitive impairment以下MCI、)症例の早期発見と、認知症への進展をブロックする可能性を追求することで、高齢者のQOLを改善するだけでなく、認知症介護に伴う社会負担の軽減をめざすことである。	
判定	承認	本申請は承認された。

令和7年3月31日審議

13

申請者	外部研究員	寺田 清人
2024-54 てんかん・発達障害の専門クリニックの役割		
研究の概要	てんかんのある方、発達障害のある方に良質の診療を届けるため、診療の現状を解析し、問題点を確認し、これにより限られた医療資源を有効に活用するための解決方法を検討する。	
判定	承認	本申請は承認された。

14

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-55 自己免疫性辺縁系脳炎の病態を反映したバイオマーカーの探索		
研究の概要	本研究は、既存の検体（髄液・血清・唾液）、検査結果（3TMRI、PET-MRI、SPECT、長時間ビデオ脳波など）を用いて、抗神経抗体が関与すると思われる自己免疫性辺縁系脳炎の新規抗体を解析の上で病態解明と新規バイオマーカーの検索を目的としている。	
判定	承認	本申請は承認された。

15

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-56 卵巣奇形腫保有女性における抗NMDA抗体の保有割合について201804		
研究の概要	視神経脊髄炎Neuromyelitis optica (NMO)では発病の10年ほど前から自己抗体（抗AQP4抗体）が血液中にできていることが分かり、非ヘルペス性急性辺縁系脳炎などの自己免疫介在性神経疾患においても、発病からかなり前の健康な時期（前駆期）に自己抗体ができている可能性がある。NMDA型GluR抗体の関与する脳炎では卵巣奇形腫を約半数に認めるとされるが、前駆期が存在し、健康な時期に抗体が産生されている可能性がある。本研究により、卵巣奇形腫症例のNMDA型GluR抗体の陽性頻度が分かると、抗NMDA受容体脳炎などの自己免疫介在性神経疾患のリスク因子としての卵巣奇形腫の意義が明らかになり、NMDA型GluR抗体産生を早期に診断し、自己免疫介在性神経疾患の発病予防あるいは早期診断治療につなげ得ると考えている。	
判定	承認	本申請は承認された。

令和7年3月31日審議

16

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-57 自己免疫介在性脳炎・脳症に関する多施設共同研究201912		
研究の概要	静岡てんかん神経医療センターにおいて保険収載項目であるGluN2B抗体・GluN1抗体・GluD2抗体(ELISA)の測定、保険未収載項目(サイトカインなど)の測定、移入研究に各試料を用いる。自己免疫が関与する急性脳炎の早期診断法、有効な治療法を見出すための医学系研究を行う。	
判定	承認	本申請は承認された。

17

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-58 自己免疫介在神経疾患の免疫調節関連遺伝子の解析201804		
研究の概要	非ヘルペス性急性辺縁系脳炎、Rasmussen症候群、脳炎後てんかん等の自己免疫介在神経疾患患者で検査に同意いただいた方、及び職員等の対照を対象とする。 方法:末梢血ゲノムを用い、Foxp3, CTLA4 (CD152), T-bet, PDCD-1, BTLA, Foxj1などの免疫調節関連遺伝子の、遺伝子発現調節領域を含む全遺伝子領域、または特定のSNPIについて配列を解析し、CpG領域等のメチル化解析を行う。	
判定	承認	本申請は承認された。

18

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-59 自己免疫介在性中枢神経系疾患に関する国際共同研究(2017更新)		
研究の概要	ラスムッセン症候群等の難治てんかん、急性辺縁系脳炎等の自己免疫介在性中枢神経系疾患の病態を明らかにし、予防法・早期診断法・治療法を確立することが望まれる。同意をいただいた患者さんから血液・髄液などを採取させていただき、臨床症状・治療の経過および後遺症の有無等の臨床データならびにMRIなどの神経画像データとともに、英国OxfordのJohn Radcliffe HospitalのAngela Vincent教授(Neurosciences Group、The Weatherall Institute of Molecular Medicine)に送付する。自己抗体の測定をお願いする。	
判定	承認	本申請は承認された。

令和7年3月31日審議

19

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-60 自己免疫介在性脳炎・脳症の病態解明ための精神症状例に関する研究 (2017更新)		
研究の概要	精神疾患・認知障害関連症状を有する症例で免疫マーカーを調べ、自己免疫介在性脳炎のリスク因子の頻度を明らかにし、精神疾患・認知障害関連症状を有する症例が先行感染症出現時点で脳炎移行予防対策が必要かどうか明らかにしたい。	
判定	承認	本申請は承認された。

20

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-61 自己免疫介在性脳炎・脳症の病態解明のための感染症症例に関する研究 (201705)		
研究の概要	非ヘルペス性急性辺縁系脳炎 (NHALE) では、多くの症例に記憶障害等の後遺症が起こり、日常生活への支障が大きい。NHALEの前駆期－先行感染症期の病態解明を行い、発病リスク因子、発病先行因子を明らかにし、感染症出現時点でのNHALE発病リスク診断、NHALE発病抑止対策、早期治療を可能にしたい。NHALE先行感染症時の一般・免疫マーカーの反応がNHALE特異的なのか？非特異的なのか？を明らかにするため、健康対照で感染症時の一般・免疫マーカーの変動を検討する。	
判定	承認	本申請は承認された。

21

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-62 自己免疫性脳炎および難治性てんかんにおける自己抗原の同定、および自己抗体の作用機構の解明201804		
研究の概要	国立病院機構静岡てんかん・神経医療センターの自己免疫介在性中枢神経系疾患を疑われた症例、及び抗GluR抗体測定目的で送付を受けた検体でVGKC複合体抗体 (LGI1, Caspr2, ADAM22, DCC, DPP10, ADAM23抗体を含む) の測定も希望する症例で、文書により同意いただいた方を対象とする。	
判定	承認	本申請は承認された。

令和7年3月31日審議		
22	申請者	名誉院長 高橋 幸利
	2024-63 「CDKL5遺伝子異常によるてんかん性脳症の臨床的特徴の解明」(静岡) 2017-10	
	研究の概要	本研究では、乳児期発症難治性てんかんの原因遺伝子の一つであるCDKL5遺伝子の遺伝型と臨床的特徴、てんかん治療の予後について、後方視的に検討を行い、治療法の確立を目指す。
23	判定	承認 本申請は承認された。
	申請者	名誉院長 高橋 幸利
	2024-64 脳形成障害の遺伝的要因に関する研究(201709)	
	研究の概要	皮質異型性などの脳形成障害の発症機序を明らかにして、脳形成障害による難治てんかんの画期的な治療法を確立したい。また、体細胞遺伝子変異による脳形成障害の発症を予防する方法を確立したい。血液とFCD脳組織の遺伝子を調べる。
24	判定	承認 本申請は承認された。
	申請者	名誉院長 高橋 幸利
	2024-65 てんかん・高アルカリフォスファターゼ血症・精神運動発達遅滞等を呈する患者におけるGPIアンカー型蛋白質、およびその生合成および修飾に関わる遺伝子変異の研究201808	
	研究の概要	高アルカリフォスファターゼ血症・精神発達障害・てんかん発作等の症状を手がかりに患者の解析を行い、先天性GPI欠損症が含まれているかを明らかにすることを目的とする。
	判定	承認 本申請は承認された。

令和7年3月31日審議

25

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-66 「抗てんかん薬に起因する副作用出現リスク解明を目指した遺伝子研究(2017更新)」2017-10		
研究の概要	ラモトリギンの薬疹のリスク遺伝子多型を同定することが可能となれば、それを持つ患者には投薬を避け、副作用を回避することが可能となる。	
判定	承認	本申請は承認された。

26

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-67 特発性てんかん等におけるPX-RICS遺伝子のSNP解析(2017更新)		
研究の概要	特発性てんかん症例等でPX-RICSのSNP解析を行い、PX-RICSとヒトてんかんと関連を調べ、てんかん素因の診断・治療・発作の予防につなげる。	
判定	承認	本申請は承認された。

27

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-68 オーダーメイド医療実現のための研究(2017更新)		
研究の概要	オーダーメイド医療は、個々の患者さんの薬物代謝に関連する分子の遺伝子変異をあらかじめ知った上で、薬物を選択し、副作用の無い安全な治療を可能にするという理想的医療で、文部科学省・厚生労働省ともに推進に力を入れているものである。今日副作用による医療費が数兆円にのぼるとだれていて(http://biobankjp.org/faq/faq_02.html)、抗てんかん薬のように長期に内服することになる薬剤では、特にその実現が期待されている。	
判定	承認	本申請は承認された。

令和7年3月31日審議

28

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-69 WDR45遺伝子変異によるてんかんの臨床的検討		
研究の概要	WDR45遺伝子変異によるてんかんは、多様な臨床特徴を有し、臨床、脳波、画像、血液生化学検査、髄液検査などの特徴は明らかになっているとはいえない。抗てんかん薬治療に難治に経過する例が多く、その治療法も確立できていない。当院で診断された症例を主体に、これらの特徴を検討する。	
判定	承認	本申請は承認された。

29

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-70 限局性皮質異形成によるてんかん患者の認知予後		
研究の概要	限局性皮質異形成によるてんかんは抗てんかん薬治療に難治に経過する例が多く、てんかん外科治療の対象となるが、外科治療前後において認知機能がどのように変化するかわかりにくい。本研究では外科治療を受けた患者の術前後の認知機能の変化について明らかにする。	
判定	承認	本申請は承認された。

30

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-71 タクロリムスによるRasmussen脳炎の内科的治療に関する臨床研究(202306)		
研究の概要	これまでの研究で、Rasmussen脳炎治療に対する保険適用がないタクロリムスの有効性・安全性を日本において論文化し、確かめることができ、2022年に適応外使用を厚労省から承認された。Rasmussen脳炎の10例前後に投与中であり、さらに継続して安全性などを見ていく。	
判定	承認	本申請は承認された。

令和7年3月31日審議

31

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-72 プランルカストによるてんかん治療に関する臨床研究(2017更新)		
研究の概要	これまでの当センターの結果・基礎文献を踏まえて、てんかん治療に対する保険適用がないプランルカストの有効性・安全性を確かめ、てんかんのより安全かつ有効な内科的治療法の開発に繋げる。	
判定	承認	本申請は承認された。

32

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-73 本邦におけるACTH療法の管理についての実態調査		
研究の概要	ACTH療法は、主にWest症候群(点頭てんかん)に対する第1選択薬として、国内外において幅広く実施されている。しかし、本邦における、ACTH製剤の投与量・期間、実施時の管理方法、有害事象の程度・頻度等の実態については、いまだ明確となっていない。アンケート調査を実施することにより、その実態や提言の周知状況等を明確とすることを目的とする。	
判定	承認	本申請は承認された。

33

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-74 NGSを用いた希少難病家系の網羅的ゲノム解析の追加解析(静岡)		
研究の概要	未解決の遺伝学的背景があると思われる未診断症例に対して、全ゲノムシーケンスやロングリードシーケンスなどの新しい網羅的遺伝学的解析技術を追加し、候補バリエーションの同定を試みる。	
判定	承認	本申請は承認された。

令和7年3月31日審議

34

申請者	名誉院長	高橋 幸利
2024-75 プロスタグランジンと中枢神経機能障害に関する研究		
研究の概要	中枢神経系疾患と思われる症例の中で、睡眠障害、感覚過敏・障害、神経炎症、心理ストレス関連行動変容等を呈する症例の、髄液中プロスタグランジン(PG)を測定し、病態との関連を検討する。	
判定	承認	本申請は承認された。

35

申請者	院長	高橋 幸利
2024-76 自己免疫介在性脳炎・脳症に関する前駆期研究201802		
研究の概要	非ヘルペス性辺縁系脳炎(NHALE)では記憶の障害等の後遺症が残り、日常生活への支障が大きいため、NHALEなどの自己免疫介在性脳炎の前駆期－先行感染症期の病態解明、脳炎期の病態解明、感染症における免疫反応の特殊性を検討し、先行感染症出現時点での脳炎移行予防対策を構築し、NHALEによる後遺症を減らす。 文書により同意をいただいた患者さんからの情報あるいは医療機関からの情報で、血液・髄液などを保存されている病院や献血機関(日赤など)等(以下各施設と略)に連絡し、各施設での保存の有無を確認し、各施設の了解があれば保存検体を譲り受け、免疫マーカーを測定する。	
判定	承認	本申請は承認された。